

科学研究部 第4回広島県科学セミナーでダブル受賞

2月16日(日)に行われた第4回広島県科学セミナー(広島県教育委員会主催)において、科学研究部地学班が最優秀賞(地学部門)、物理班が優秀賞(物理部門)を受賞しました。



地学班は、2年生の高田正徳くんを中心に庄原市の西城川で化石発掘を行っています。昨年から比和自然科学博物館(庄原市)と提携して始めた研究で、将来は千数百万年前に生息していた古代のクジラ化石を発見することを目標に活動しています。

今回の科学セミナーでは、これまで博物館や庄原化石集談会のアドバイスを受けて研究してきた古クジラに関する内容をまとめて発表し、高い評価を受けました。



(比和自然科学博物館の展示)

2年生の野地哲平くんを中心に活動している物理班は、気柱共鳴に関する不思議な現象～筒に棒を入れるとなぜ音が下がるのか～を発表し、優秀賞(第2位)を受けました。これは5年前からの継続研究で、昨年夏の第37回全国高校総合文化祭(長崎県島原市)でも発表しました。筒に棒を入れてたたくと音が下がるという、単純なのに非常に不思議な現象を研究したものです。



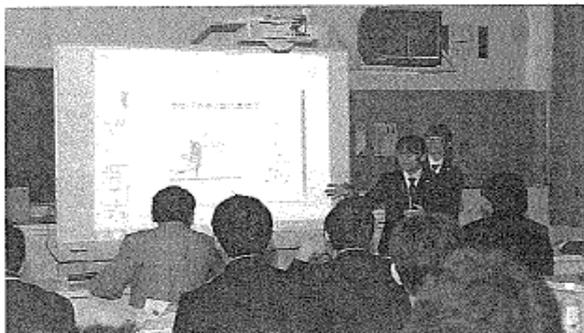
(物理班の実験風景)

両方とも簡単ではないけれど夢のある研究で、これからも研究は続きます。

HIROSHIMA

「庄原の山 かつて海だった」

広島県科学セミナー 高校生がユニーク発表



旺盛な探究活動の成果を発表する高校生。広島市中区

高校生らが科学の探究活動の成果を競う「広島県科学セミナー」が16日、広島市中区の広島県立広島国泰寺高校で開かれ、多くのユニークな発表が行われた。

セミナーは県教委などの主催。昨年度までは、大学での実験や講義に参加した生徒らがその知識を競う筆記試験と実験試験にとどまっていたが、本年度は科学的な思考力と表現力を伸ばす

ため、自由なテーマでの探究による成果も発表してもらった。

この日は、県内19の高校で部活動に取り組むグループを中心に計64チーム、206人が参加。物理、生物、情報といった6分野に分かれ、パソコンから画像を投影しながら、成果を解説していった。

会場では学生らが次々にユニークな研究を発表。指をこすり合わせて音を出す「指パッチン」で、きれいな音を出す人と出せない人

の違いを調べたチームや、広島県呉市首戸町でよく捕れるカタクチイワシが何をよく食べているか、内臓を顕微鏡で調べたチームも。

広島県庄原市の山から1600万年前などのクジラの化石がよく出土することについて、かつてその一帯が海だったとの推測を発表し、最優秀賞を獲得した県立紙園北高校チームの高田正徳さん(17)は「まだまだ納得いく結果が出ていないので研究を続けたい」と笑顔で話した。